

ゆめ伴(とも)プロジェクトin門真 ～認知症になっても輝けるまちをめざして～

森 安美 ●ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会 総合プロデューサー(主任介護支援専門員、社会福祉士)



ゆめ伴カフェのスタッフが集合

1. 背景と目的

認知症と診断されると地域社会との関わりが急激に減少し、認知症の人が地域社会で活躍する機会が失われやすいという社会的な背景がある。そのため、認知症の人が輝ける場や活動を街の中に創出することを通じて、認知症になっても輝ける地域社会を構築していくことを目的としている。

これまでは医療のCure(治療)、介護のCare(ケア)を中心に認知症の人への支援が行われてきたが、3つ目の「C」としての、地域の人とのCommunication(つながり・交流)に焦点を当てた取り組みとしていく。そのことにより、認知症になっても希望や夢を持って豊かに暮らすことができることを目指していきたい。

2. 取組みの方法／期待される成果

取組みの主体となるのは、ゆめ伴(とも)プロジェクトin門真実行委員会である。本会は、門真市介護保険サービス事業者連絡会(市内250事業所)や社会福祉協議会、当事者及び市民団体やNPO、行政など多様な団体で構成している。

具体的な取組みは、認知症の人と市民が共に楽しむことを基本とし、認知症当事者の方々と

共に企画しスタッフとなる「ゆめ伴カフェ」、認知症の人と地域の保育園児と共に綿花や野菜を育てる「ゆめ伴ファーム」、地域の交流の場「ゆめ伴サロン」、綿花から糸を紡ぐ「綿花プロジェクト」、地域交流の「ゆめ伴マーケット」、認知症の人が主役となる「ゆめ伴コンサート」、要介護高齢者や市民、介護スタッフが共に助け合いながら町を歩く「RUN伴+門真」の7つの多分野にわたる活動を、複合的に実施予定である。

認知症の人にとっては、活動に参加し役割を担うことで自信に満ちた表情に変わり、BPSDが軽減されるなどの変化がみられている。また、共に活動する地域住民は認知症の人への理解が深まり、認知症の人と共に楽しむ活動への参加が自身の喜びや生きがいとなっている。つまり、認知症の人や地域住民が活動への参加を通じて心豊かになり、心身の健康寿命の延伸につながることを期待される成果と思われる。

また、多職種協働を超えて、市民や企業も含めた地域まるごとネットワークへと発展させながら実践していくことから、地域包括システムの1つのモデルとなることを期待される。